

学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (18夏は来ぬ ステップ2)

年 組 氏名

「夏は来ぬ」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましよう。

夏は来ぬ 作詞：佐々木信綱

一 うの花の におうかきねに

時鳥 ほととぎす 早もきなきて

しのび音 ね もらす 夏は来ぬ

二 さみだれの そそぐ山田に

早乙女 さおとめ もすそぬらして

玉苗 たまなえ 植うる 夏は来ぬ

※この後の歌詞は省略しています。

○言葉の意味
来ぬ：来た。
うの花：うつぎの花。
時鳥：夏にやってくるわたり鳥。
さみだれ：五月雨。五月ごろにふる雨。
早乙女：田植えをする若い女の人。
もすそ：着物のすそ。
玉苗：いねの苗。

〔夏は来ぬ 鑑賞文の一例〕

○一番も、二番も、五七・五七・七・七・五音の組み合わせになっています。

○題名の「夏は来ぬ」という言葉は、一番、二番の最後で使われています。

そのほか

○一番では、においや音（嗅覚、聴覚）で感じる「夏」について書かれています。二番では、みたこと（視覚）で感じる「夏」について書かれています。

「夏は来ぬ」は、昔からよく歌われてきた日本の名曲です。CDなどで曲をきいて、ワークシートで書いたことを思い浮かべながら歌詞を読んだり、歌ったりしてみましょう。



学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (⑱ほたるの光 ステップ1)

年 組 氏名

ほたるの光

作詞

稲垣千穎
いながきちかひ

ほたるの光 窓の雪

ふみ読む月日 重ねつつ

いつしか年も すぎの戸を

あけてぞ今朝は 別れゆく

※この後の歌詞は省略しています。

「ほたるの光」の歌の歌詞には、昔のことばがつかわれています。どんな意味か考えながら、下のらんにつつして書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--

学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (19) ほたるの光 ステップ2)

年 組 氏名

ほたるの光

作詞 いながきちかい
稲垣千穎

ほたるの光 窓の雪

ふみ読む月日 重ねつつ

いつしか年も すぎの戸を

あけてぞ今朝は 別れゆく

※この後の歌詞は省略しています。

○言葉の意味

ふみ読む：本などを読む。

「ほたるの光」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましよう。

「ほたるの光 鑑賞文の一例」

○どの行もは、七音と五音の組み合わせになっています。

○電気がないころ、ほたるの光や雪に反射する月の光をあかりにして本を読んでいた様子が書かれています。

そのほか

・「すぎの戸」は、「杉」と「過ぎ」の両方の意味を持っていると考えられます。

「ほたるの光」は、昔から卒業式でよく歌われてきた日本の唱歌です。CDなどで曲をきいて、ワークシートで書いたことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり歌ったりしてみましょう。



学 年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう (㊟荒城の月 ステップ2)

年 組 氏名

「荒城の月」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

荒城の月 作詞 土井晩翠

春高樓の 花の宴

めぐるさかずき かげさして

千代の松が枝 わけ出でし

昔の光 いまいずこ

秋陣營の 霜の色

鳴きゆく雁の 数見せて

植うる剣に 照りそいし

昔の光 いまいずこ

※この後の歌詞は省略しています。

○言葉の意味

春高樓：高いところに立っている城

花の宴：花見のえん会

めぐるさかずき：みんなで飲む酒

かげさして：月の光がさして

千代の松が枝わけいし：大きな松の枝の間から

いまいずこ：いまはどこにいったのだろうか

陣營：戦の陣営

雁：がん。わたり鳥。

植うる剣：植えるようにさしてある剣

照りそいし：照らしていた

〔荒城の月 鑑賞文の一例〕

○「昔の光 いまいずこ」という歌詞がくりかえされています。

○春と秋、花と霜、千代の松が枝と植うる剣が対の言葉になっています。

○春は栄えている様子、秋にはそれが廃れていく様子が描かれています。

「荒城の月」は、昔からよく歌われてきた日本の名曲です。CDなどで曲をきいて、ワークシートで書いたことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり歌ったりしましょう。

